

# ～ 名谷リビングラボプロジェクト ～

## 活動の様子



「名谷赤道故郷祭」当日の様子

## 企画・活動概要

パーソルビジネスプロセスデザイン株式会社(神戸名谷ワークラボを2施設運営)および須磨区役所(地域協働課)と連携し、名谷エリアの地域活性化を目的に、地域住民のシビックプライド醸成につながる活動を検討・実施した。学生はフィールドワークと対話を積み重ね、赤道(歩行者専用道)等の地域資源を再発見したうえで、企画立案から関係者調整、運営設計までを担い、最終的に「名谷赤道故郷祭」を実施した。



フィールドワークの様子

## 経緯・背景・目的

須磨ニュータウンでは、育児・介護と仕事の両立や自分の時間の確保を支える職住近接が課題となっている。神戸市(須磨区役所)との連携のもと、パーソルビジネスプロセスデザイン株式会社は神戸名谷ワークラボを2箇所整備し、地域の雇用創出と活性化に取り組んできた。今般、この運営に加えて学生と連携し、名谷の魅力可視化し愛着・誇りを育む取組を進めたいとの相談を受け、産学官連携の実践として企画・実施した。



具体的なコンテンツをみんなで検討

## 取り組む課題

須磨区は世帯数に大きな変動がない一方、人口は減少傾向にあり、一世帯当たり人口も減少している。名谷エリアも駅前を除き同様の傾向が見られ、定住率向上や新たな人口流入につながる地域活性化策が求められている。そこで、地域の価値を自分たちのものとして捉え直し、住民が地域への愛着や誇りを持つ状態(シビックプライド)を高めることを課題として設定した。



屋台で販売する7つの商品の材料・量を計算

## 本学(学生)の役割

- ・名谷エリアでのフィールドワーク(観察・ヒアリング等)と、企業・行政との対話を通じて、地域資源と課題を整理した。
- ・シビックプライド醸成につながる取組を企画、提案。
- ・地域での祭り開催を決定後、コンテンツ設計、運営体制づくり、役割分担、関係者調整、広報を関係者と連携しながら主体的に実施。
- ・当日の運営を学生主体で実施。



実施場所をリサーチ、スペース等を計測

## 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

- ・学生発案の「名谷赤道故郷祭」を企業・行政と共創、産学官3者が主催として実現した。提案が採用され、須磨区役所から主催を得た点は、学生の主体性と関係構築の成果である。
- ・地域の高校生・シニア等も巻き込み、約100名規模の運営組織を構築。当日は雨天にもかかわらず、子どもたち、家族連れを中心に約1,000名が来場し、赤道と周辺公園を活用した4つの体験型コンテンツにより多くの笑顔と交流を生んだ。
- ・学生は、課題や資源の発掘から企画～準備～実施の一連の活動の中で、企画力、調整力、実行力、巻き込み力、臨機応変に対応する力を高めた。



当日運営メンバーでの集合写真

## 指導教員および関係者の紹介

### <指導教員>



商学部  
経営学科  
准教授  
岡田 恵実(オカダ エミ)  
＜専門・担当科目等＞  
起業・事業承継論、中小企業論、  
ビジネスプラン論、経営学入門 等

### <関係者・企業等>

パーソルビジネスプロセスデザイン株式会社/須磨区役所  
BPO第2統括部センター長/地域協働課 係長  
仲宗根 望(ナカソネ ノノミ)/長谷川 翔平(ハセガワ ショウヘイ)

岡田恵実ゼミナール(通称・たえみゼミ)は、起業やプロジェクトを切り口に学生ひとりひとりが自分の人生を自分でつくり、未来に向けて行動することを目指しています。自分自身の思いに基づいたマイプロジェクトや社会共創活動の実践を積極的に行っています。